

平和教育の取組事例報告書

報告年月日 2022年(令和4年)3月14日

都市名・国 北海道釧路市・日本

取組の名称	青少年ピースフォーラム
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input type="checkbox"/> 複合 ()
テーマ・目的	テーマ：原爆 目的：原爆の悲惨さや平和の尊さを中高生などの若い世代に理解していただく
対象者 (年齢・学年、人数等)	高校1年生 2名 中学3年生 1名 (例:12歳の子ども60名、保護者や市民30人など)
実施場所	釧路市役所
実施期間	令和3年8月8日・9日(2日間) ※定期的に行う取組は、その旨を記入し、いつから、どれくらいの頻度で実施しているかを記入してください。
<p>取組の概要</p> <p>毎年実施している平和図書読書感想文コンクールにおいて、最優秀賞受賞生徒を3年に1度被爆地訪問市民代表団の団員として広島市または長崎市に派遣しているところ、令和3年度は派遣の実施年(長崎市を予定)であったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のために長崎市の平和祈念式会場において大幅な入場制限が課される状況であることを考慮し、令和4年度に延期して派遣することとした。ただ、長崎市の平和祈念式に付随して開催される青少年ピースフォーラムについては、オンラインで開催されることとなり、釧路市も参加が可能であったため、令和3年度に派遣予定であった生徒などの意向を確認した上で参加したもの。(授業、イベントはプログラムの次第を、その他(例:コンテスト等)はそのプロセスを、具体的に記入してください。)</p>	
<p>参加者の反応</p> <p>参加者は、真剣に聞き入り、原爆の悲惨さや平和の尊さを理解していました。全国各地の同年代の方々との意見交換により大いに刺激を受けた上、平和への考えや取り組み方法に関する新たな知見を得た様子でした。</p>	
<p>成果</p> <p>参加者の反応から、平和への意識醸成に役立ったと思います。実際に被爆地を訪問したいという声もありましたので、今後も被爆地訪問市民代表団の派遣を続けていく必要があると感じました。参加者のほか、ピースフォーラムを見守っていた釧路市平和都市推進委員会の委員および参加者の父母からも好意的な反応を得ており、今後の平和事業推進につながるものでありました。</p>	
<p>課題</p> <p>中高生においては、リモートでの意見交換に不慣れな部分もある様子でしたのでオンラインでのやり取りの際は、大きなジェスチャーを用いたほうが画面越しの相手には伝わりやすいなどの参考情報を事前に伝えておいたほうが良いと考えました。新型コロナウイルス感染症の収束如何ではあると思いますが、今後もオンライン開催があるような際は、準備段階から参加者への事前説明を綿密に行う必要があると感じています。</p>	
<p>取組で使用した素材について(図書、映像、パワーポイントなど。内容をわかりやすく簡潔に記入してください。)</p>	
<p>上記素材の共有の可否(取組で使用した素材を、平和首長会議のWEBサイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。)</p> <p><input type="checkbox"/>掲載可能(素材を添付してください) <input type="checkbox"/>掲載不可 <input checked="" type="checkbox"/>不明</p>	

※ 画像等の資料がある場合はメールに添付して提出してください。

青少年ピースフォーラム



